

## 【分科会の成果と課題】

### [成果]

- ◇ 協議内容の発表グループを協議後に抽選決定したことで、緊張感のある協議会となった。
- ◇ 地域と一体となった防災教育を推進するため、教頭は地域との窓口を担い、防災教育の意識改革を進め、実効性のある防災管理と組織活動が重要であることを認識した。
- ◇ インクルーシブ教育システムを構築するため、教頭は校内の基礎的環境整備の推進役を務め、合理的配慮の合意形成をコーディネートする立場であることを確認した。
- ◇ キャリヤ教育、佐渡学を充実させるため、教頭は「知らせる」「支える」「育てる」「広げ近づける」の4つの視点から教職員のコーディネート力を高めることを認識した。



### [課題]

- ◆ 学校の防災教育プログラムを作成するに当たり、保護者、地域住民、関係機関、幼保との連携をどのようにしていけばよいかが課題。
- ◆ 「インクルーシブ教育システムの構築」「基礎的環境整備」「合理的配慮」等の言葉が、温かく当たり前に使われるよう、全職員の共通理解等に努めなければならない
- ◆ 教員は、自分が住んでいる地域行事や地域を知る講座等に参加していない。教頭が率先して地域にかかわっていかなければならない。

## 【下越Aブロック大会の成果と課題】

### [成果]

- ◇ 事前打ち合わせ会を、当日使用する会場で実施した。新潟市からも提案者、司会者、支援者から渡航してもらえたことで、本番のイメージをつかむことができた。実行委員も機材、会場レイアウト、会の進行など、詳細を詰めることができた。
- ◇ 下越Aブロックは航路移動という条件であるため、開会式及び閉会式の簡略化を進めることで、分科会の時間を確保することができた。
- ◇ 佐渡汽船の運航状況を把握し、ジェットfoilが欠航になる前の臨時便を参会者に知らせ、臨機応変な対応を取ることができた。



### [課題]

- ◆ 前回までの佐渡大会の会場が使用できず、港近くで同会場全分科会を実施できる施設を確保することができなかった。第2分科会は開会式後に移動する必要があるため、移動の無駄を省くため港内の食堂を会場として設定したが、研修の場として検討を要する。
- ◆ 欠席者が多く出た。全体の22.5%が欠席（新潟市小学校21.1%、新潟市中学校39.3%、佐渡市小中学校0%）になった。主な理由は学校行事関係（文化祭、就学時健診）と校長県外出張である。開催起点日や実施曜日等の再検討と会員の参加意識の向上について必要性を感じた。